書　評

『科学論文がスラスラ書ける！パソコンのやさしい使い方』

水島　洋、廣島彰彦／著
東京　洋土社
2005年4月1日発行
A4版　236p　定価3,900円

科学研究は発表をもって完成する。また、医学研究の成果は、発表活動を通して、エビデンスの高い医療を支援することになる。本書の序文に示されているように「研究者にとって、論文を書くことは、目的であり、結果であり、評価である。（中略）結局のところ、“Publish or perish”ともいわれるように研究において論文発表することこそが研究と同じぐらい重要である」。

17世紀初頭、ヨーロッパの科学者は、学術的私信を、個人の間で交換し、ゆっくりとした普及速度で知識や情報を伝え合った。そして1665年、多くの同学の仲間へ、広く迅速に情報を伝えることのできる革新的メディアとして、学術雑誌が創刊された。それ以来、3世紀に渡り、執筆と発表のスタイルは変化していない。手書きやタイプライターであった原稿が、印刷物として定着されてきた。しかし、近年このスタイルが、コンピュータとインターネットの出現により大きく変貌した。

本書で紹介されたように、文献検索、文献管理、図表作成、画像処理、データ解析、論文執筆、電子投稿などの、論文作成のためのあらゆる場面で、効果的にパソコンやデジタル資源を活用するための基礎とスキルが、求められるようになった。研究活動のあらゆる側面に、新しい技術が浸透している現状を、具体的に読み取れる。

多くの執筆者により書かれたこともあり、表記の不統一など、気になった箇所も存在した。また、「スラスラ書ける」という論題は、マーケティング努力が強すぎる。しかし、医学系の情報サービスに関与している本誌の読者にとり、最新の研究環境や利用者の生態を知るチャンスにもなり、興味深いだろう。また、個人的にも有益なヒントが多くあった。多彩な内容が1冊にまとめられており、新しい時代の論文作法書である。

（文責：山崎　茂明／愛知淑徳大学文学部図書館情報学科）